

西仙北中「弁当の日」 **植えた米でおにぎり** 食への関心高める



生徒が手作りの弁当を持参する「弁当の日」の活動が、大仙市の西仙北中学校(石川真一校長)で行われた。食への関心を高め、食事を作ってくれる保護者へ感謝するきっかけをつくろうと、11月25日に実施した。3年生45人は、初夏に手植えした米でおにぎりを作り、弁当と一緒に味わった。

おにぎり用に準備した白米は約7.2キロ。調理室にエプロン姿で集まった生徒は、炊き上がった白米をしゃもじで手際よくほぐし、塩を振ったラップに包んで一つ一つ丁寧に握った。

出来上がったおにぎりは教室に持ち帰り、給食の時間にそれぞれ机で弁当を広げた。肉巻きや玉子焼き、ソーセージなどを頬張った生徒たちは「ちょっと塩味が薄めだった」「おかずに合う」「自然の味がする」などと感想を口にした。

おかずに唐揚げを作ってきた高橋侑太郎さんは「普段から料理するのが好き。きょうはミニトマトやブロッコリーを入れて彩りを意識した。料理家になるのが目標」と笑顔で話した。(富樫幸恵)

(令和7年12月 1日(月)秋田魁新聞より一部抜粋)